

「ウクライナ危機から問う日本と世界の平和」



2023 年 2 月、ウクライナ東部クラマトルスクを取材中の志葉

○志葉のウクライナ現地取材

- ・ 2022 年 4 月 首都キーウ周辺、ブチャ、ハルキウなど。ロシア軍による住民虐殺や、無差別なロケット弾、砲撃等による被害を取材。現地人気ロックスターのザリツカヤさんにインタビュー。
- ・ 2023 年 2 月 首都キーウ周辺、ウクライナの東部クマラトルスク、バフムトなど。その後のキーウや、動物愛護団体、子ども達を励ますボランティア達、ウクライナ東部・南部の激戦地からの避難民取材、東部の重要都市クラマトルスクの取材、最激戦地バフムトの取材



志葉が取材した主な地域

○攻撃から 1 年のキーウ

- ・ キーウ周辺では、時折、攻撃は受けるものの、人々は日常を取り戻そうと努力しており、店や事業所なども営業を再開しているところが増えた印象。ただ、やはりインフラ攻撃による停電の影響は大きく、個人や店レベルで小型の発電機を使って、しのいでいる状況。物価も 1.5 倍程高くなり、生活費の負担が大きくなっている。

- ・街頭で、人々にインタビューすると、「戦争は早く終わってほしいが、ロシアに妥協したくはない」という一見、相反する意見が多く聞かれる。2014年のロシアによるクリミア併合や、同年のウクライナ東部ドネツク州やルハンスク州へのロシア軍への越境攻撃、同2州での親ロシア武装勢力への支援など、この間、ロシアの脅威にさらされ続けていること、また、ブチャでのようにロシア占領地域での虐殺や人権侵害があるため、ロシア軍をウクライナから撃退しないと、という人々の思いがあるようだ。



命がけで動物達を助けている現地動物愛護団体「フリーアニマル」のメンバー

○東部重要都市クラマトルスク

- ・クラマトルスクにいる間（2月12～16日）、毎日空襲警報が鳴っていた。同市中心では、住宅街が2月1日（2023年）にミサイル攻撃を受け、集合住宅が崩壊。20人が死傷した。また、周囲の建物も爆風で窓が壊れるなどで、住めない状況となってしまった。このほか、クラマトルスクでは、各地で住宅や学校、病院なども攻撃を受けており、二つの学校は完全に破壊されてしまっている。また、滞在中（2月14日）、市内の病院の敷地内にロケット弾が着弾。この病院は以前も攻撃され、既に使えなくなっていた。
- ・クラマトルスクは工業地帯だが、戦争で工場が営業停止となったため失業中の人が多い。戦争が長期化する中で、人々の生活も厳しくなっている。
- ・クラマトルスク周辺でもロシア軍の攻撃が激しく、住民や民間施設に被害。



ロシア軍に破壊されたクラマトルスク郊外のスーパーマーケット

○ウクライナ危機と米国のダブルスタンダード

- ・ウクライナへの侵攻は国連憲章違反で、ロシア軍による市民や民間施設に対する攻撃は国際人道法違反。決して許されることではない。ただし、それを批難する米国もイラク戦争で全く同じことをしている。米国の支援するイスラエルも国際人道法違反を繰り返している。米国も深く反省し、外交・防衛政策の見直しが必要。



市民を連行する米軍兵士ら イラク首都バグダッドにて



イスラエル軍によって破壊されつくしたパレスチナ自治区ガザの住宅街

○いかに戦争を終わらすか？

- ・ウクライナの人々に無抵抗を呼びかけたり、欧米に「兵器を送るな」と言っても理解されない。ロシアの侵攻を止めさせることが、まず必要。
- ・あくまで平和的手段での解決を目指すなら、ウルトラCとして、以下のようなことが考えられる。
 - 1) 欧米から経済制裁を受けるロシアが頼るのは「中立国」。特に中国。
 - 2) 日本が防衛費倍増や敵基地攻撃能力の保有を止めることを条件に、中国にロシアを説得してもらい、場合によっては対ロシア経済制裁に中国も参加してもらう。
 - 3) 中東やアフリカ、アジアのイスラム圏の国々にも、ウクライナ侵攻をやめるよう、対ロシア圧力をかけてもらうため、米国はこれまでの身勝手な対中東政策を反省し、

見直す。特にイラク戦争やパレスチナ問題。これを行うように日本からも働きかける。

- 4) 世界は戦争なんかしている場合ではない。特に地球温暖化(＝気候危機)は人類の存亡すら左右しかねない大問題。軍事に費やすお金があるなら、地球環境の保全や脱炭素社会の実現に使うべき。そのためにも、まず侵略戦争を禁じた国連憲章の徹底が必要で、プーチン大統領の暴走を止め、ロシア全体としても反省して償うことが求められる。その上で、全世界的な軍縮を目指す。

・日本国憲法の前文には、「われらは平和を維持し、専制と隷従、圧迫と偏狭を地上から永遠に除去しようと努めている国際社会において、名誉ある地位を占めたいと思う」とある。憲法9条を護るだけでなく、戦争自体が世界からなくなるために、憲法の理念を活かした行動をしていくべきだ。

志葉玲プロフィール：

フリーランスジャーナリスト。1975年東京出身。パレスチナやイラクなどの紛争地での現地取材の他、脱原発・自然エネルギー取材、入管による在日外国人への人権侵害等、様々なテーマを取材・執筆する。2022年4月、ウクライナでの現地取材を敢行。週刊誌や新聞、通信社などに寄稿、テレビ局に映像を提供。Yahoo! ニュース個人のオーサー(オフィシャルライター)。著書に『ウクライナ危機から問う日本と世界の平和 戦場ジャーナリストの提言』(あけび書房)、『難民鎖国ニッポン』、『13歳からの環境問題』(かもがわ出版)、『たたかう! ジャーナリスト宣言』(社会批評社)、共編著に『イラク戦争を知らない君たちへ』(あけび書房)、『原発依存国家』(扶桑社新書)など。公式ウェブサイト www.reishiva.com



『ウクライナ危機から問う日本と世界の平和 戦場ジャーナリストの提言』(あけび書房)

☆志葉の取材活動をご支援下さい！

御存知の通り、志葉はフリーランスであり、その取材費は全て自前です。昔と異なり、メディアも経費節減で、フリーランスの記者への報酬も十分ではありません。つきましては、もし、志葉の取材に資金面でご協力いただけましたら幸いです。

○郵便局からのお振込

【口座番号】14290 - 4108551 【口座名】ジャーナリスト志葉玲を支える会

○銀行からのお振込

【金融機関】ゆうちょ銀行 【店名】四二八(読みヨシニハチ) 【店番】428

【預金種目】普通預金 【口座番号】0410855 【口座名】ジャーナリスト志葉玲を支える会